



議長の目^{アイ}ランド



地球温暖化の影響で漁業環境が悪化し、我が国の漁業生産量はピーク時の半分近くにまで減少し、特に地先漁業においては海水温の上昇で磯焼け等が発生し、生産量が大きく落ち込み漁業従事者の高齢化と相まって、多くの漁村が元気を失くしていると言われている。

この新島村も、かつて隆盛を極めたタカベの追込漁や棒受け網等の集団漁業が時代の本流から外れ、漁業の水揚げ量が大きく落ち込み、漁業従事者の減少に拍車をかけているような気がする。若者にとって漁業は自然を相手の厳しい職業、ここ何年か後継者が生まれていないし、当然港の活力がなくなってきている。村も議会も「何とかしなければ、何とかしなければ」と言っているうちに現状打破が出来ずに、衰退の一途をたどっている。

第1次産業である漁業や農業が衰退すれば、新島の主産業の一つである観光業は勿論ほかの全ての産業に影響を及ぼす。

3月16日に平成30年度の新島村予算が議会で可決されました。残念ながら、本年度も予算の中に漁協や行政が目指す、漁業振興策が見えてこない。

青沼村長の施政方針を見ると産業振興に並々ならぬ決意が感じられるが、今後、新島村の漁業をどのように振興していくのか漁業者と行政でのプランニングが必要では？いずれにしても早急に対策をしないと、魚価の低迷、燃油の高騰、漁業者の高齢化等漁師を取り巻く環境は毎年、悪くなる一方である。

漁協を中心に歳を重ねてもできる漁法の工夫や観光産業とのコラボレーション等若者に魅力ある漁業をみんなで考え、もう一度漁業を活性化しようではありませんか。議会も全力で応援してまいります。頑張ってください。



若郷漁港内の午後。ほとんど出漁中。

「にいじま漁業協同組合平成30年通常総会」の来賓あいさつからの抜粋
(議長 前田 邦弘)